

## さんせんそうなん　はいけい 三船遭難の背景

てんのうへいか　ぎょくおんほうそう  
8月15日の天皇陛下による玉音放送でポツダム宣言の受け入れを表明してから1週間後に起き  
ひげき　きゅう　れんぼう　やぼう　かんけい  
た悲劇については、旧ソビエト連邦の野望と関係  
しています。

にほん　れんぼう　しょうわ  
日本とソビエト連邦は昭和16年(1941)に日ソ  
ちゅうりつじょうやく　むす　じょうやく　そうご  
中立条約を結んでいました。この条約は相互  
ふかしん　だい　ごく　ぐんじこうどう　たいしょう  
不可侵(\*36)および第三国の軍事行動の対象にな  
ぱあい　ちゅうりつ　たも  
った場合には中立を保つというものでした。そして  
ゆうこうきげん　きげん　き　ねんまえ  
その有効期限は5年で、期限の切れる1年前に  
はいき　つうこく　さら　ねんかんじどうてき  
廃棄(\*37)を通告しなければ更に5年間自動的に  
えんちょう　しょうわ  
延長されるというものでした。つまり、昭和16  
年(1941)4月25日発効した条約ですので、昭和  
21年(1946)4月24日までは有効でした。しか

### \* 36 相互不可侵

国家が条約等によって相互に武力の威嚇あるいは武力の行使を禁じ、領土保全、国境の現状、政治的独立を尊重しあうこと

### \* 37 廃棄

条約の効力を当事国の方の意思で無効にすること

し、ソ連は昭和20年4月5日に日ソ中立条約の不延長を通告してきましたが、有効期限が切れる前の8月8日に条約を破棄して日本に宣戦布告をし、翌9日から対日参戦をしました。条約違反ということができます。

このソ連の行動は2月4日から11日までクリミア半島のヤルタで行われたアメリカ大統領ルーズベルト、イギリス首相チャーチル、ソ連指導者スターリンの三者会談で対日本戦についての密約(\*38)がかわされたことによるものでした。当時第二次世界大戦もヨーロッパ戦線においてはナチスドイツの敗北が確実となり、極東での日本に対する戦線への戦力を集中することにより、早く戦争を終結させようとしていました。そのため

### \* 38 密約

ひそかに契約や条約などを結ぶこと

に、アメリカをはじめとする連合国はソ連にドイツ

降伏後に対日参戦をするよう促していたのです。

そこで、アメリカのルーズベルト大統領はソ連の

スターリンに対日参戦の代償として、戦後の南樺

太（サハリン）および千島列島の領有を認めていたのです。

そして、南樺太には8月11日にソ連軍が国境

を越えて侵攻してきました。これによって南樺太

の住民は本土へ避難するために真岡（ホルムス

ク）、本斗（ネベリスク）、大泊（コルサコフ）

の三港へ駆けつけ、引き揚げ船に乗り順次北海道

に向けて逃げようとしたのです。

れんぐん ソ連軍は8月23日から南樺太住民の本土への  
ひあきんし 引き揚げを禁止しました。泰東丸が最後の引き揚  
せんげ船となつたのです。

みなみからふとじゅうみん ほんど  
ちしまれつとう また、スターリンは南樺太と千島列島のほかに  
ほっかいどう せんりょう 8月16日に北海道の占領もアメリカのトルーマ  
だいとうりょう ようきゅう ン大統領に要求してきました。ルーズベルト大統  
りょう きゅうし ふくだいとうりょう だいとうりょう  
領の急死で副大統領から大統領になつたトル  
ママンはこれを18日に拒否します。しかし、スタ  
ークリンは虎視眈々(\*39)と状況を見ながら機会を  
ねら かんが 狙っていたものと考えられます。

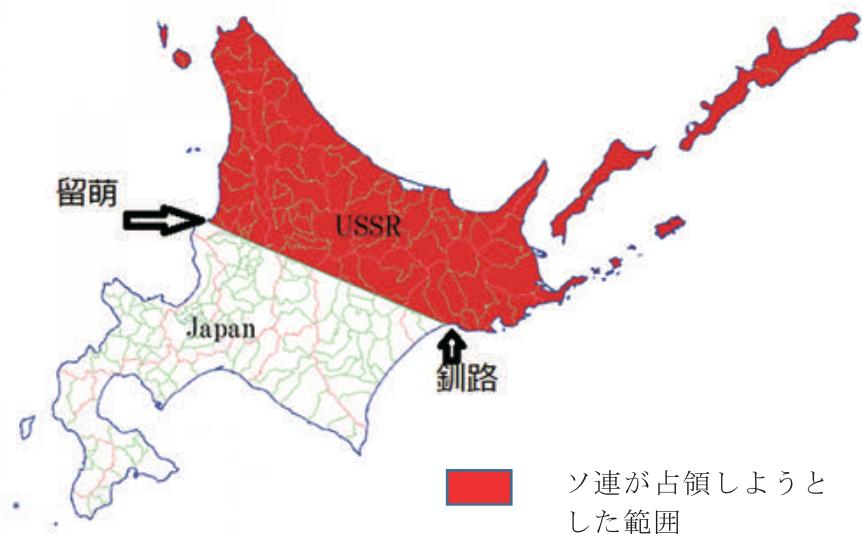
さんせん こうげき せき せんすいかん  
三船を攻撃したL-12とL-19の2隻の潜水艦は  
ほっかいどう しんこう さくせん こうどう  
北海道への侵攻のための作戦で行動していたこと  
じょうりくち るもい くしろ  
がわかっています。上陸地は留萌および釧路で8  
月24日が決行の日だったといわれています。ス

#### \*39 虎視眈々

機会をねらって油断なく形勢をうかがっているさま

ほつかいどうせんりょう  
ターリンが北海道占領のための樺太での軍事行動

からふと  
ぐんじこうどう  
ていし  
を停止したのは30日になってからです。



れん  
ソ連の北海道占領作戦